

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

88

まぼろし 移動展

考古学から探る

古代会津

—古墳・飛鳥・奈良・平安—

福島県立博物館



考古学から探る 古代会津 — 古墳・飛鳥・奈良・平安 —

(新編陸奥国風土記「巻之五」会津郡・耶麻郡その二より)

会期 3月15日(土)~ 5月11日(日)

(表紙) 三角縁神獸鏡 会津大塚山古墳 (会津若松市) ※国指定重要文化財

見どころ1 伝えられた秘宝 内行花文鏡ないこうかもんきょう

(田村山古墳：会津若松市) ※県指定重要文化財



内行花文鏡 (破鏡)

わざと鏡を割り、破片を大切に代々伝えたとされる「破鏡」です。ピカピカに磨かれ、すり減ったその鏡には、今でも当時の人々の思いが宿っているようです。

見どころ2

東北屈指の大古墳

会津大塚山古墳出土品 (会津若松市) ※国指定重要文化財



靴が出土した様子

卑弥呼の鏡という説もある「三角縁神獸鏡」、いにしへの文様が刻まれた漆塗りの盛矢具「靴」など、現在も全国の考古学者の注目を浴びる会津大塚山古墳に再注目します。

プロローグ 古墳時代の幕開け 会津盆地における古墳時代は、いつ、どのようにして始まったのかを探ります。

I 大型古墳と鏡の時代 四世紀「古墳時代前期」

四世紀に入ると、会津盆地には大型の古墳がいくつもつくりられ、東北有数の古墳地帯となります。そしてヤマト朝廷との深いつながりを示す副葬品が出土します。

II 謎の豪族居館と鍛冶のムラ 五・六世紀「古墳時代中・後期」

五世紀、大きな古墳のつくりられなくなった会津に、突如二重の堀に囲まれた豪族の館が出現します。また、洪水により埋もれたムラが、現代によみがえります。

III 溝で囲うムラと崖に並んだ横穴墓 六・七世紀「古墳時代後期-飛鳥時代」

この時代、溝と断崖に囲まれたムラの姿があります。そして人々は崖に横穴を掘り、お墓としました。

IV 姿を現した会津郡衙 八・九世紀「奈良-平安時代」

ながらく場所の分からなかった会津郡衙(郡役所)の有力候補が、最近の発掘調査で明らかとなりました。また、古代会津は焼物の名産地でもありました。

V 仏都会津の始まりと古代人の祈り 八・一〇世紀「奈良-平安時代」

大同二年(八〇七)名僧徳一が開いたとされる慧日寺、その年代を裏付ける創建時の遺物が出土しています。そして、古代人の祈りとは。

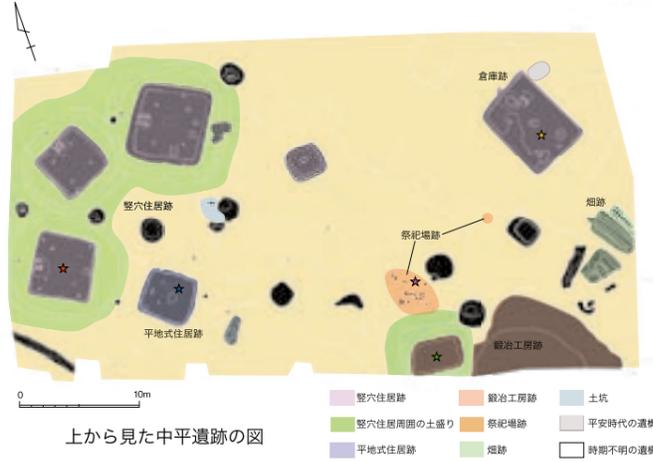
Eピローグ 次なる時代へ 武士の時代へ、時代の流れは確実に会津へも押しよせてきました。

関連行事

- 考古学講座「考古学から探る—古代会津の謎—」
講師 当館学芸員 横須賀倫達
日時 四月一九日(土)午後一時半~二時半
- 展示解説会
講師 当館学芸員 横須賀倫達
日時 四月一九日(土)午後二時四十分~
五月一日(日)午後一時半

見どころ3 洪水に埋もれた古墳時代のムラ

中平遺跡出土品 (会津坂下町)



中平遺跡案内図

今を遡ること1500年前、洪水によりひとつのムラが姿を消しました。そして現代、発掘により再び姿を現したそのムラは、私たちに当時の人々の営みを教えてくれます。

見どころ4 小さなかけらに残された証拠

墨書土器「會」(会) (郡山遺跡：会津若松市)



墨書土器「會」(会)

会津郡衙(奈良・平安時代の郡役所)は県下では唯一位置が分からず、「幻の会津郡衙」とも呼ばれていました。ところが最近の発掘でその位置を解明する鍵がみつかったのです。

まほろん移動展「考古学から探る古代会津—古墳・飛鳥・奈良・平安—」は、三月十五日(土)~五月一日(日)まで開催しています。観覧料 一般・大学生二六〇円(二二〇円) / 小中学生・高校生は無料 (一)内は二〇名以上の団体料金です。

冬の展示

「南会津の地図・絵図展」
—福島県歴史資料館の資料から—
関連事業

◎歴史講座

「展示室講座」南会津の地図・絵図展」の見どころ

平成二〇年二月九日(土)

講師 当館学芸員 高橋 充

はじめに南会津の現在の地理や、江戸時代の南山御蔵入領の歴史について、スライドなどをまじえて説明しました。天領とされた南会津地域は、実際には会津藩による預かり支配の期間が長かったこと、いくつかの村がまとまって組と称していたこと、村の絵図は、目的に応じて、集落・耕地・山野・河川などを描くものであったことなど、展示の理解を助けるような内容をお話しました。



その後、展示室へ移動し、個々の資料の解説を行いました。展示室を歩きながら解説する合間に、「絵図はどんな人が書いたの?」「測量はしたの?」「郷頭ってどんな役人?」など、いろいろな質問が寄せられました。今回の講座には、六〇名を超える参加者があり、当初予定していた会場を、急遽変更するほど盛況でした。

(歴史担当 高橋 充)

歴史美術テーマ展示

「おかえりなさい! ミス福島」
関連事業

◎記念講演会

「80年前の国際交流—人形交流は人間交流—」

平成二〇年三月一日(土)

講師 答礼人形研究者 高岡美知子さん

高岡先生は着物の生地で作った赤い素敵なブラウスで登場。「講演会のおときはいつもこの決まった洋服で、気合を入れているのですよ」と微笑んでいらつしやいました。

講演はまず、アメリカ製の世界地図を示すところから始まりました。もちろんアメリカが真ん中に描いてあります。日本は西の端に小さく見えます。これがアメリカ人の世界認識ですよ、と高岡先生はお話なさいました。

次にシドニー・L・ギューリックと渋沢栄一という日米の人形交流を演出した二人の紹介。昭和二年(一九二七)の人形による日米交流についての説明に入りました。とくに今回の展覧会の主役である答礼人形とはどんな人形でどのような道具を携えてアメリカに行ったかについて細かく説明されました。次は一九九二年に答礼人形との出会い。それから二〇〇四年まで続く現存人形の探究の旅。その先で出会った答礼人形の現在の姿について報告されました。

高岡先生の講演の底を流れるのはタイトルにある



とおりの日米の「人間交流」だということです。この八〇年間、紆余曲折波乱一杯の日米関係でしたが、その二つの国の間には親善を支えてきた民間の人びとの努力があったのだということです。

そもそも今回の展覧会も現在の所有者アラン・ペイトさんが昨年九月に大きなトラック二つにミス福島とのお道具を詰め込んで東京に現れたのが端緒なのでした。驚く高岡先生にペイトさんは雛祭りには福島に里帰りさせてあげたいと望んだのでした。それで高岡先生は知り合いのつてを頼って終にここ県立博物館に声を届けたのです。偶然と善意と熱意。そうしたものが混ざり合い八〇年後の日米のささやかな交流になったのでした。人形交流は人間交流。この言葉はたしかに聞き入る私たちの心に届きました。

(民俗担当 榎 陽介)

青い目の人形、
福島での歓迎は?

Q&A
回答者
歴史担当
木田 浩

Q…先日博物館で行われた「おかえりなさい! ミス福島」という展示で、次のようなことを知りました。昭和二年当時、日米関係は険悪だったため、日本へ留学経験のあるシドニー・ギューリック氏が、子どもの純真な心に国際親善の種をまき、両国の関係を改善しようと、一七三九体のアメリカ人形を日本へ贈ったそうです。日本ではそれを受けて、資本主義の父と呼ばれ、社会事業にも積極的であった渋沢栄一が中心となって、五八体の日本人形をアメリカへ贈ったということでした。このやりとりを福島の人はどのような受け取ったのでしょうか?

A…一言でいえば好評であったようです。会津地方の様子を中心に、当時の新聞記事からその様子をお

伝えします。昭和二年当時、親善人形の記事が『新会津』と『会津日報』(以下『日報』と記す)の二紙に合計十四件確認できます。最も早い記事は一〇月二四日付『日報』の「可愛い、米國人形—二十六七日頃若松へ—」と報じたものです。人形が来る若松市内の五幼稚園が、公会堂で合同の歓迎会を催すと報じられています。実際に十一月一日に若松駅に着(『日報』十一月二日付)、同月一日に歓迎会が行われました(『日報』十一月九日付)。また県北梁川でも保育園所蔵の当時の写真から、十一月二三日に歓迎会が行われていたことが分かります。なお小学校への配布は多少遅くなったようで、若松第一小学校では二月一日(『日報』二月一六

日付)、第五小学校では同月二六日(『日報』二七日付)に、歓迎会が行われています。また猪苗代小学校では二月一三日に歓迎会が行われ(『日報』二月一五日付)、郡山市の福良小学校(現湖南小学校)に残された昭和二年当時の学校日誌からは、二月一日に、同市守山小学校では現在も保存されている総代が述べた「歓迎の辞」の原稿から二月三日にそれぞれ歓迎会が行われていたことが分かります。施設や地域によって時期に多少の違いはありますが、アメリカから送られた人形が歓迎されていた様子がうかがわれます。

この歓迎ムードはやや過熱的であったとみえ、一月三〇日付『新会津』には「青い目のお人形さん

引つ張り合い」という見出しで、次のような記事が載せられています。坂下幼稚園の園長が、河沼郡内一七の幼稚園や小学校に、二体の人形しか配分されないことの不公平感から、日本の子供たちが、アメリカの子供たちの純情な気持ちへ悪感情をおこさせる結果になるのではないかと、県学務部長に訴えたというものです。

また福島からも答礼人形として通称「福島絹子」がアメリカに送られることになるのですが、この際学校や幼稚園では子供たちから、その資金が集められませんでした。先ほどの園長が子供たちへ、親善人形の意義について分かり易く綴った手書き演説原稿が残されています。各施設長の方々は子供たちへ、その

趣旨を分かり易く説明し、資金を募ったことがよく伝わる内容です。

しかしこの盛り上がりがある事件を引き起こします。それは山形県内で起きた詐欺事件です。一月一七日付『新会津』は、「小学校準訓導」の二五歳の青年が、アメリカへ人形を送る資金として、児童の父兄らから集めたお金を詐取したと報じています。日米親善交流の盛り上がりと思わぬ陰をもたらした事件といえるでしょう。

また全ての人がこの交流を、手放しに喜んでいただけではないようです。一月二日付『日報』には「不可解の青眼の人形」と題する現在の社説に通じる記事が載せられています。アメリカの子供たちから送られた善意の人形の背後には大人の意志が働いているのではないかと指摘します。さらに国際会議で日本の海軍縮小を主張し、アメリカ



日米親善アメリカ人形歓迎会の様子
私立梁川保育園蔵

本土では日本人移民を排斥しているという事実、アメリカの意図がどこにあるのかという疑義が呈されています。第一次世界大戦後の国際情勢の中で、親善交流事業に素直に賛意を表すことのできない記者の思いが述べられています。

しかしこの八〇年前の親善交流事業は、一般の人々にとっては温かく受け取られていたと考えるのも良いでしょう。そのあかしが第二次世界大戦中の複雑な国際情勢を経てもなお、奇跡的に廃棄されず、現在まで伝えられた県内一七体のアメリカ人形と先日里帰りした福島絹子の存在なのではないでしょうか。

会津地方の産育儀礼と祝着

佐々木長生 民俗担当

三月二二日(土)から五月二一日(日)まで、歴史・美術テーマ展示「ささやかなみやび」子どもの着物と祝いの装い」を開催します。子どもが誕生し、小学校に入学する七歳ごろまで着用する着物や産育儀礼に着用する祝着等を展示します。

主な展示資料は、平成一六年に当館に寄託された会津若松市の渡部元真氏が収集された仕事着を中心とした「渡部つとむコレクション」の中から、産育儀礼に関わる子どもの着物を展示します。同コレクションは東北地方の仕事着を中心に、アイヌ民族の衣類と民具などもあり、企画展「布の声をきく」(平成一八年度)や「樹と竹」(平成一九年度)にも多くの資料を展示してきました。

今回のテーマ展示では、生後五〇日(女児は五一日)に鎮守の神に初宮参りをするときに新生児に掛けるカケイショウ(掛衣装)と呼ばれる祝着を中心に、ウブギ(産着)やヒトツミ(一ツ身)と呼ばれる紐付きの着物、ユカタ(浴衣)やハンテン(半纏)などを展示します。カケイショウには、鶴や亀、松竹梅、宝尽くし、義経など武者絵の絵柄など縁起の良い吉祥文様が鮮やかに描かれたものが多く、親たちの子どもの無事成長への願いが込められています。誕生から大人へと成長する子どもの民俗については、常設展部門展示「ふくしまの子どもの民俗」で紹介しています。こちらもあわせてご覧いただき、子ども

もの着物にあらわれた祝いの美を鑑賞いただきたく思います。

子どもの成長を祝って親たちが行う七五三の祝いでは、現在でも全国的に子どもたちに同じような暗れの装いをしてお宮参りを行っています。このような習俗は、いつごろから行われるようになったか、また出産直後のさまざまな祝いの儀礼はいつごろから行われるようになったかを、会津地方の産育儀礼から見てみたいと思います。会津地方の民俗を歴史的に位置づける資料として、寛文五年(一六六五)・貞享二年(一六八五)・文化四年(一八〇七)の風俗帳があります。これらの資料から民俗の変遷を知ることができます。

現在の会津若松市北会津町中荒井周辺の貞享二年の「中荒井組風俗帳」には、出産時の「うぶたて」や「取あげ姥」、五〇日目の初宮参り、百日目の「喰初」などの記述がありますが、子どもに着せる着物や装いについての記述はありません。文化四年の風俗帳になると、「えなぎ」などの記載が見られます。現在の会津若松市の「若松風俗帳」には、若松城下の子ども達の産育儀礼が記載されており、そこに子どもの祝いの衣装を見ることが出来ます。産後七日の「一と夜」には、新生児に「胞衣」を着せ祝うとあります。エナギには、背守りといって大豆やヤマビコと呼ばれる山繭などを付けます。二日目の「枕下げ」(枕引)には父方より、「産着」を贈るとあります。胞衣はエナギと呼ばれる単衣の袖無で、トリアゲパンパと呼ばれる産婆役の女性が贈る慣習は昭和三〇年代まで行われてきました。産着は、ツツトシコなどと呼ばれる一ツ身の着物で、紐を付けて綿を入れて作ります。一月一日には、「上下着」と「紐解」があり、五歳の男児は袴袴を着て、男女三歳の子どもは着物の紐をとり、帯を締めるようになる祝

いを行います。初宮参りのカケイショウは、都市部で使用されたものが地方へ、一気に普及していったものでないでしょうか。現在の七五三の祝いの衣装のように、鮮やかな祝いの文様の世界が全国的に展開されたものでないでしょうか。



(右) カケイショウを掛けて初宮参り 会津美里町



(左上) カケイショウ 会津若松市
(左下) 同上、背面

トピックス

はなびミュージアムイベント

平成20年度はミュージアムイベントと名称を新たに、毎月さまざまなイベントを行います。ご期待ください。

4月

会津東山芸妓さんの魅力

あいつ芸妓振興友の会、東山温泉芸妓屋協同組合のご協力により、芸妓さんの華やかな唄と踊りを鑑賞して頂きます。古典舞踊「鶴亀」「君が代松竹梅」の他に、東山芸妓オリジナル曲「なりませぬ節」など、会津東山芸妓さんならではのステージをお楽しみ下さい。



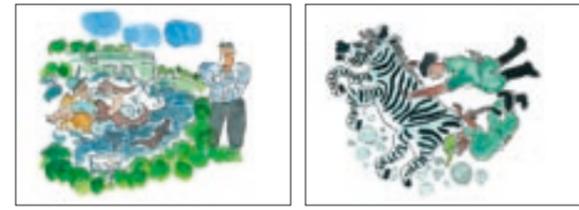
「日舞で彩る春のけんぱく」

4月26日(土)午後1:30~3:00
東山温泉芸妓の皆さん
県立博物館エントランスホール
入場無料
共催 あいつ芸妓振興友の会
後援 東山温泉芸妓屋協同組合

5月

旭山動物園に学ぶ

北海道旭川市の旭山動物園は、予算と入館者の減少、寄生虫病の発生で一時は閉園の危機に立たされました。しかし、逆境の中でも理想の動物園像を追求し続け、現在では上野動物園と肩を並べる人気の動物園になりました。園長の小菅正夫さん、元飼育係で現在絵本作家として活躍中のあべ弘士さんをお迎えし、旭山動物園の魅力とミュージアムの未来を探ります。



あべ弘士「どうぶつえん物語」より

館長サタデープロジェクト 自然との共生—博物館に求められるもの1

「旭山動物園の奇跡を探る」

5月31日(土)午後1:30~3:30
旭山動物園長 小菅正夫さん
元旭山動物園飼育係・絵本作家 あべ弘士さん
館長 赤坂憲雄
県立博物館エントランスホール
入場無料

夏の企画展は、平成二〇年七月一九日(土)から九月三日(火・祝)まで

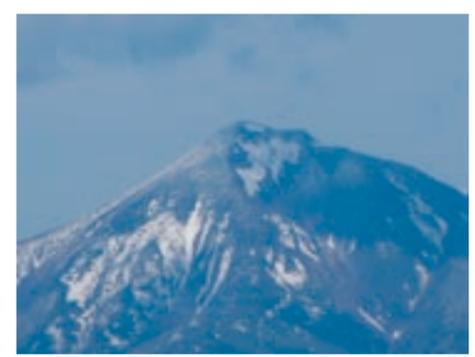
夏の企画展 予告

宝の山2008

—磐梯山をめぐる人と自然—

会津のシンボルである磐梯山を共通テーマに、この山をめぐる自然・歴史・文化など、幅広い内容を紹介する企画展です。磐梯山の形成史を、これまでの火山層序の研究に基づいて紹介するコーナーや、山麓に暮らす人びと、明治の噴火の報道に携わった人びとを紹介するコーナーなどを予定しています。

今回は、左記の二館の展示と合わせて、共同企画展「会津磐梯山」として実施します。



磐梯山噴火記念館(北塩原村)
「写真から見る1888年の磐梯山噴火」
7月5日~11月16日
野口英世記念館(猪苗代町)
「磐梯山への想い
—野口英世の恩師・小林栄が遺したもの—」
7月1日~11月30日

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「ささやかなみやび」

—子どもの着物と祝いの装い—

会期 開催中～五月二一日(日)

「チャイニーズヒーロー」

—描かれた中国の英雄たち—

会期 五月一七日(土)～六月一五日(日)

「ふくしま窯めぐり2—相馬駒焼」

会期 六月一七日(火)～七月二一日(月)

ミュージアムイベント

「日舞で彩る春のけんぱく」

—会津東山芸妓さんの魅力—

出演 東山温泉芸妓の皆さん

日時 四月二六日(土)午後一時半～三時

館長サタデープロジェクト

自然との共生—博物館に求められるもの1

「旭山動物園の奇跡を探る」

講師 旭山動物園長 小菅正夫さん

絵本作家・元旭山動物園飼育係

あへ弘士さん

館長 赤坂憲雄

日時 五月三一日(土)午後一時半～三時半

館長サタデープロジェクト

自然との共生—博物館に求められるもの2

「タイトル未定」

講師 館長 赤坂憲雄

日時 六月二一日(土)午後一時半～三時

木曜の広場

場所 講堂 入場無料

会津学講座

第一回「会津農書」の民俗世界

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 四月三日(木)午後一時半～三時

第二回「風土記・風俗帳の民俗世界」

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 五月八日(木)午後一時半～三時

第三回「会津の民俗芸能

—早乙女踊・田植歌・獅子踊等—

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 六月五日(木)午後一時半～三時

講演・講座

※は要申込

◎企画展関連行事

○考古学講座

「考古学から探る—古代会津の謎」

講師 学芸員 横須賀倫達

日時 四月一九日(土)午後一時半～二時半

○展示解説会

講師 学芸員 横須賀倫達

日時 四月一九日(土)

午後二時四五分～三時半

○美術講座

「親子で写そう!けんぱく大撮影会」

講師 写真家・東北芸術工科大学大学院教授

日時 四月二〇日(日) 午後一時半～二時

内藤正敏さん

午前一〇時半～午後三時

展示室講座1

「中国の英雄にこめた願い」

講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 五月二四日(土)午後一時半～三時

※「隣閨茶会

—けんぱくの宝と会津の茶道具で—

講師 学芸員 川延安直 小林めぐみ

日時 六月二二日(日)午後一時半～三時

※「相馬駒焼の絵付けに挑戦」

講師 相馬駒焼第一五代当主

日時 六月二八日(土)午後一時半～三時

田代清治右衛門さん

実演

場所 体験学習室

「昔語り」

講師 語り部 山田登志美さん

日時 四月二三日(日)午後一時半～三時

「昔語り」

講師 おはなしおばさん 横山幸子さん

日時 五月一八日(日)午後一時半～三時

「機織り①」

講師 染織工芸家 山根正平さん

日時 六月一五日(日)午後一時半～三時

「機織り②」

講師 染織工芸家 山根正平さん

日時 六月二九日(日)午後一時半～三時

実技講座

「須賀川の絵のぼり製作

—鍾馗さまを描こう—

講師 伝統技術保持者 大野青峰さん

日時 五月五日(月)午後一時半～三時

大野久子さん

はくぶつかんで遊ぼう!

場所 体験学習室

「こいのぼりをつくろう」

日時 五月三日(土)午前九時半～午後四時半

*展示解説員がご案内いたします。

*時間内随時受付 所要時間二〇分程度

*昼の時間帯一時中断有り

やさしい展示解説会

*展示解説員による常設展の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の午前一一時と午後二時から三〇分ほど行います。

*今年度は五月一〇日(土)から開始いたします。

*その他、行事等の詳細につきましては、

月行事予定やホームページをご覧ください。

さい。

四～六月の休館日

四月 七日(月)・一四日(月)・二一日(月)・二八日(月)

五月 七日(水)・一二日(月)・一九日(月)・二六日(月)

六月 二日(月)・九日(月)・一六日(月)・二三日(月)・二四日(火)・三〇日(月)

二三日(月)・二四日(火)・三〇日(月)